令和７年度　第２回二宮町町民活動推進委員会　議事録

日　時：令和８年２月 19 日（木）　18:30～19:30
場　所：Zoom 会議
出席者：手塚委員長、大河原副委員長、丹羽委員、高見委員
　　　　馬場委員、小椋委員、山岡委員
欠席者：０名
事務局：町民課４名
傍聴者：０名

１．開　会

２．あいさつ

（委員長）先日、社会の課題に手を差し伸べる市民が多いのか少ないのか、今後社会に貢献するという意識を高めるようなことをしていくことが必要という話を伺った。自分も活動団体の相談業務の中で「つなげる」というキーワードで課題感を解決するようなことをやらせていただいている。
今回も興味のある活動がたくさんエントリーされているので、二宮の町づくりの一角を担うようなイメージで、私たちに全ての人が応援できると良いなと考えている次第。

３．議題

（１）委員の退任及び委員の委嘱について
新任委員より挨拶

（２）町民活動団体現場確認報告について
・「南口駅前商店会納涼祭実行委員会　打合せ（７月 11 日）」について
馬場委員より報告

（委　員）企画の方向付けに興味があり、打ち合わせに参加した。皆さん商店街活動で忙しい中、熱心に議論されている姿は本当に頭が下がった。今回の企画は、商店街活性活動に加えて、全町民を対象とした地域コミュニティ活動醸成を図る狙いがあり、まさに町民活動の一環であろうと思っている。しかし、商店街活動とは違う、町民活動といっても従来の商店街活動と同じものを全部町民活動と言ってしまうと、他の商店がどんどん手が挙がってくる。それが果たして良いのかという素朴な疑問があった。やはり一商店街の活動ではなく、町民活動なんだという意味

で、きちっとその辺りのスタンスを明確にしなければいけないという風に思った。
したがって、当イベントの企画推進において２点配慮を期待したい。
①ふれあいの機会として強力に訴求する。「ふれあいの機会を楽しもう広げよう」のようなキャッチフレーズを明確に出していただきたい。
②従来以上に全町への PR を徹底する。例えば他の商店街に PR の協力を依頼するとか。実際そう簡単にいかないとは思うが、そのような PR 活動を全町に広げていただきたい。
最後に、公的な支援はわずか３年なので、当該活動を長く継続させるための資金、財源をどうするかということがまだ十分に検討されていない。例えば地元の支援企業を募るなど。そのようなことを具体的な活動の仕組みとして検討していただきたいと思った。
私が商店街活動と町民活動をどう区別すべきがわからなくて、皆さんの意見を伺いたい。このイベントを町民活動と言ってしまうと、他の商店街から申込が殺到した時にどうするのか、今回この企画の現場にあえてそのお願いをしたくて参加させていただいた。他の商店街の PR や資金確保ということを全町民を対象にしてコミュニティ醸成を図るという位置づけの中で動いていただきたい。時間をかければ、これは楽しい場だということで広がっていくのではと思い、何とか３年間のうちに定着させたいなという思い。

・「NPO 法人だぁれ　寺子屋（７月 24 日）」について
丹羽委員、高見委員、山岡委員より報告

（委　員）献身的に活動をしていて感心した。ただ、ある意味「点」での活動であって、ここからどう学びどう広げていくのか。見守るのが我々委員、行政の機能だろうという風に思っている。色々な事をトライしている。居場所がないというのはどこでも言われているが、他方で空き家問題と言われるほどに場所は物理的にはある訳で、それをどうマッチングしていくのか。様々な問題は全てこのマッチングに行きつくところでもあり、色々なひねりを加え、これを学びの機会にしていくことが肝要ではないかと思った。

（委　員）寺小屋という発想は素晴らしく思い活動に注目している。だぁれのインスタグラムがあり、２月の月間スケジュールの稼働日数が半分。これは見学に行った時とほとんど変わっていない。活動というのは、委員がおっしゃったように少しずつ広がっていく、広げていくのがすごく大事なことだと思っていて、それが半年たっても増えていかないというのは、狭いところで閉じこもっている感じが実はしている。他の小学校区、一色とか山西でも同じようなことが広がっていくというのが、理想だと思っていて、様子も見ているが今のところ全くその動きがなく、

半年、一年経っても同じところで固まっていると、この先活動としてどうなのかというのを思っている。

（委　員）学習の場で勉強している子もいれば、押し入れに集まって遊んでいる子もいて、自由に過ごせる居場所になっていると感じた。建物も味わいがあって良かった。
先ほど委員からも話があったが、始まって２年だがスタート支援ではないためこの先どうしていくかを考えなければならないということは感じた。活動としては、子ども達にとって非常に良い場所で、着実にやっておられるということは現場にいて良く分かった。

・「にのみや子ども権利フォーラム　二宮で育つこどもの未来（8 月 6 日）」について委員の退任に伴い事務局より現場コメント代読

（事務局）子どもの権利条約について学び、町づくりに生かせるよう行政と共に子どもの権利条例制定を目指す大きなテーマへの取り組みや普及活動にご尽力されていることに感謝いたします。町民がその意義を理解すること、子どもが参加でき、活躍できる機会を増やしていくことは重要なことだと思います。
これからも普及活動が広がり継続されることに期待します。

・「南口駅前商店会納涼祭実行委員会　納涼祭（９月 20 日）」について
手塚委員より報告

（委　員）雨が降っていてどうなるかと正直思いましたが、駅前の駐車場を貸し切ってパトカーが停まっていたり、地元の消防の方たちがいたり。大雨でなく小雨で皆さん楽しそうだった。体験では、お子さんたちを呼び込んで、一人の子がやると次の子がまたやったり。二宮町全体に広報したとのことである程度の人達は
集まってきていたと感じた。ただ、タイトルが南口駅前商店会納涼祭なので、これが二宮町納涼祭であれば、またちょっと違う動きもあったのかなと思う。色々な所で色々なお祭りが地元密着で行われるのはとても良いなと思いつつ、多くの町民に向けて情報発信する仕組みがもう一工夫あっても良いなと思ったが、抽選会や野菜の詰め放題などとっても賑やかであったことは事実。次もまたエントリーされると思うのでこちらでもその辺りをサポートできると良いなという風に感じた。

・「にのみや子どもの権利フォーラム　町制 90 周年記念事業こどもまんなかイベント（11 月３日）」について

大河原委員より報告

（委　員）子どもの声を聞くということで、小中学生が参加していた。自分が段々年を取り、しかも男性だとなかなか子どもの声を機会がなく、非常に良い経験をさせていただいた。子どもから大人がどういう風に見えるのか、とても勉強になった。ファシリテーターの方の説明が分かりやすく、内容も非常によかったが、来場者が少なかった。自分のような年代の男性はそういったのに参加する機会がないため、もっと PR をして参加者を増やせばなお良いのではと感じた。

（２）二宮町町民参加活動推進補助金審査方法の一部変更について（案）

（事務局）審査方法について、変更を検討している事項について説明。

①審査項目の変更

②点数の変更

③認定額審査基準の変更

（３）令和８年度二宮町町民活動推進委員会について事務局より説明

（事務局）日程について再度調整することを説明。

４．閉　会